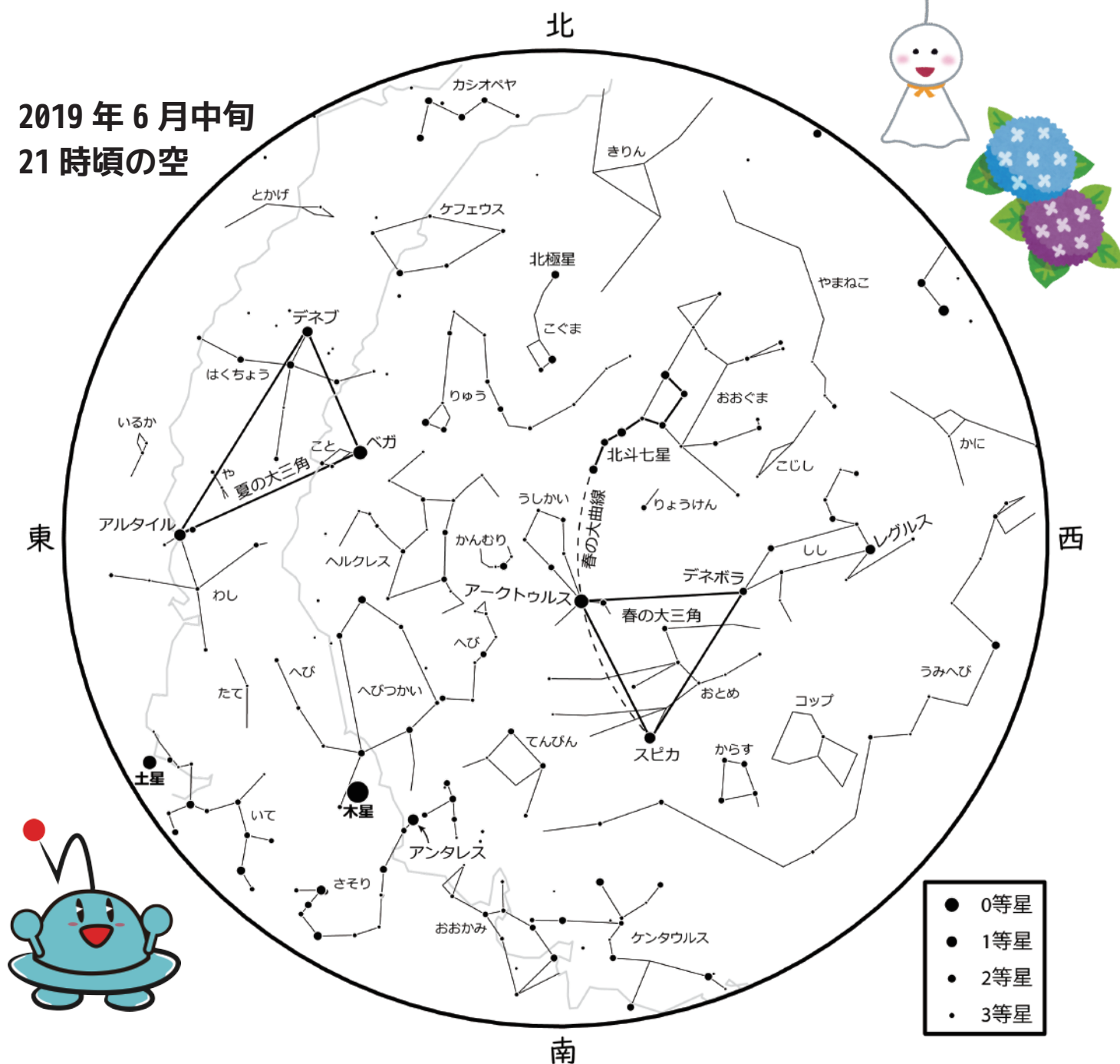


阿南市科学センター 6月の星空案内

2019年6月中旬
21時頃の空



6月は梅雨の時期なので、どうしても星空が見つらいですが、季節は段々と夏の夜空へ衣替えしつつあります。南から東の空にかけては**さそり座**が昇り、**アンタレス**という赤い輝きを放つ1等星が見えます。その近くには太陽系最大の惑星「**木星**」が煌々と光り、満月の夜でもひととき目立って見えることでしょう。天頂付近にはギリシャ神話の英雄**ヘルクレス座**が見え、その隣には7つの星が半円状にならぶ**かんむり座**という小さな星座を見つけることができます。日本において、かんむり座は地方によってその形状から「ハンカケボシ」、「ジュズボシ(数珠星)」と呼ばれていたようです。なお、梅雨が明ければ土星も観察しやすくなるでしょう。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて【毎週土曜日開催 / 19時～, 20時～, 21時～】

阿南市科学センター

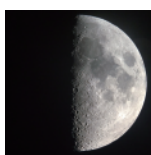
電話 0884-42-1600

<http://ananscience.jp/science/>

■ 6月の月の満ち欠けと惑星について



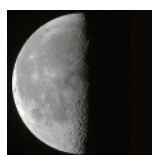
新月
3日



上弦
10日



満月
17日



下弦
25日

6月の天体観望会で月が見える日時は？



6/8(土)・・・全ての回で観測可能



6/15(土)・・・全ての回で観測可能

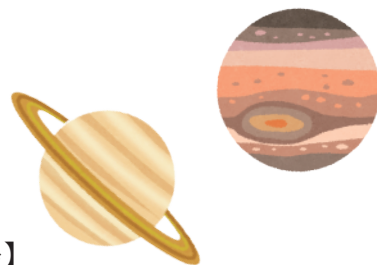
水星：6/24に東方最大離角。日没後、西のごく低空で見える。【約0.5等】

金星：夜明け前、東のごく低空で明けの明星として見える。【約-4等】

火星：日没後、西のごく低空で見えるがそろそろシーズンオフ。【約2等】

木星：6/11に衝。前半夜から東の空で見え、観測の絶好機。【約-2.5等】

土星：夜半前から東の空から見える。梅雨が明ければ観測好機となる。【約0等】



■ 6月のおすすめ天体

【球状星団 M13】

M13はヘルクレス座に位置する北天で最も明るい球状星団です。名前の通り空間的に星が球状に集まり、このM13にはおよそ数十万個の星がひしめきあっていると考えられています。科学センターの望遠鏡では数えきれないほどの星の集まりをお楽しみ頂けます。

球状星団には赤く年老いた星ばかりが存在し、年齢は100億歳にも達することから、宇宙の古代都市とも呼ばれています。さらに、球状星団までの距離は数万光年に達するものばかりで、天の川銀河の円盤を取り囲むハローという空間に分布しています。なぜこのような分布をしているのか、その理由は現在も天文学者たちの課題として残されています。



図1：球状星団 M13（撮影：阿南市科学センター）

【木星 - 太陽系最大の惑星 -】

太陽系最大の惑星である『木星』が観測好機となっています。木星は地球の約11倍もの大きさがあり、体積の大部分は水素ガスで構成されている惑星です。この天体を望遠鏡で観察すると、表面の縞（しま）模様をはじめ、大赤斑（だいせきはん）と呼ばれる巨大な斑点を見ることが出来ます。大赤斑は17世紀にフランスの天文学者カッシーニによって発見され、18世紀には約5万kmものサイズ（地球4個ぶん）で観測されていました。しかし大赤斑は年々縮小しているようで、最新の観測では約1万6千kmまで小さくなっているようです。なお木星には2018年時点で79個もの衛星が発見されています。

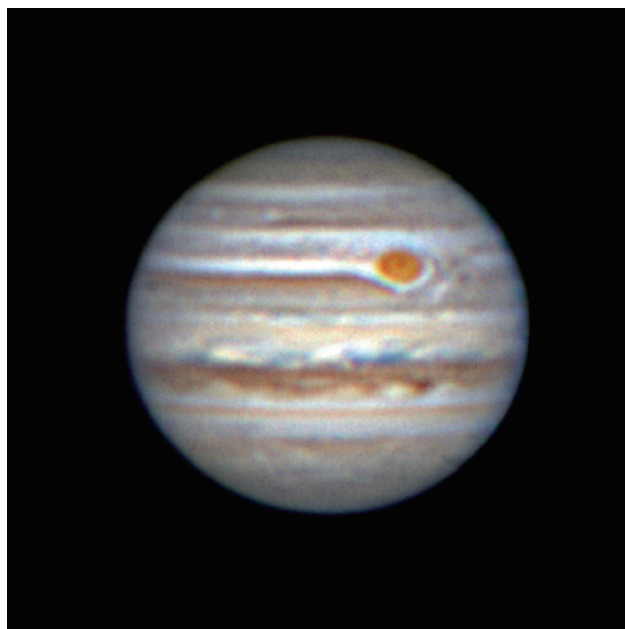


図2：木星（撮影：阿南市科学センター）